

ラジオ「福音の光」説教 「メッセージ 貧しくなられた救い主」

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。」（コリント人への手紙第二、8章9節）

クリスマスのお慶びを申し上げます。クリスマスの時節を迎え、巷には華やかさだけが目立ち、真のクリスマスの意義が見失われているように思えます。しかし、それぞれの教会において色々なクリスマスの集いが持たれ、お一人おひとりが豊かな恵みのうちにお過ごしのことと思います。ここで今一度クリスマスに秘められた恵みを味わい、その恵みに与っていることを感謝し、その「喜び」をかみしめたいものと願っております。

では、クリスマスの喜びはいったい何処にあるのでしょうか？ それは、人々が待ち望んでいた「救い主」即ち「キリストが生まれられた」ことにあります。その出来事は神様が前もって預言者たちを通して約束されたことが成就したことなのです。それは誰のためにでしょうか？ 「この民全体のため」即ち「わたしたち一人ひとりのために」です。それでは何処でお生まれになられたのでしょうか？ 「ダビデの町（ベツレヘム）」においてです。

さて、そこに誕生したその幼子が、「救い主」であることのしるしは何によってでしょうか？ 「布にくるまって飼い葉桶に寝ておられる」ことなのです。

以前に病院で赤ちゃんを取り違える事件が起こり、問題になったことがあります。それは赤ちゃんのしるしを見間違えたからではないかと思います。しかし「救い主のしるし」は普通の人と違って、一目瞭然、すべての人々に明白にされているのです。なぜそのようなしるしが与えられたのでしょうか？ それはヨセフとマリヤが皇帝アウグストの勅令によって住民登録をするため故郷に帰らなければならず、長旅のためヨセフと身重のマリヤの到着が遅くなり、既に宿屋が一杯になっていたのです。しかし、宿屋の主人の好意によって馬小屋を提供され、その馬小屋で救い主は誕生されたのです。両親は、自分たちが身につけていた布切れで赤児を包み、飼い葉桶に寝かせる以外になすすべがなかったのです。これは救い主イエス・キリストが貧しい誕生をされたことを意味しているのです。当時の「飼い葉桶」というのは、今日の私たちが想像する木製などで作られたものではなく、冷たい石で作られたものであったのです。

むさ苦しい自己中心に満ち、悪意に溢れ、また愛情のかけらもないこの世に、また

私たち一人ひとりの心の内に宿るため、主イエス・キリストは生まれてくださったのです。私たち一人ひとりを救う救い主として貧しくなってくださいましたのです。ここに神様がどんな人をも受け入れ、愛してくださることが明らかにされているのです。

人はなかなか他人の立場に立つことは出来ません。しかし愛があればその人の目線にまで身を低くしようとするのです。親は子どもを愛するゆえに身をかがめて子どもと同じ目線に立とうとします。

天の父なる神様は、罪と汚れに悩み、病、患いの中にある人々を愛してくださり、一人ひとりを救うために人となってくださったのです。その御方こそイエス・キリストであられるのです。

「キリストは、神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。」（ピリピ2章6～8節）。

「彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない。彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。まことに、彼は私たちの病を負い、私たちの痛みをになった。」（イザヤ53章2～4節）と記されています。

ここにこそ馬小屋での誕生に始まり、十字架の死に至られたイエス・キリストの貧しくなられた姿が示され、その生涯が明らかに顕されているのです。それは私たち一人ひとりの罪を赦し、神の子として受け入れ、神様と共に歩む豊かな恵みに与らせてくださるためであったのです。一人ひとりがその豊かな恵みに与っていることを心から感謝して降誕祭を過ごしましょう。

それと共に、特に、世の中全体が強い者を大事にし、弱い者に冷たくなっている昨今です。そのような弱い者一人ひとりを愛していてくださる御方がおられることを是非知っていただき、神様の救いに与ってくださることを願ってやみません。